

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策Ⅲ-4-1 多様な自然の保全
---------	---------------------

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	自然環境課長 齋藤晃大	電話番号	0852-22-5346
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	レッドデータ生物に関する調査・研究・保護事業
目的	(1) 対象 レッドデータ生物  (2) 意図 多様な種を保護する具体策を検討するための基礎資料とする。
事業概要	絶滅危惧種の保護対策の基礎資料とするためレッドデータブック掲載（予定）種について河川調査を実施する。 「島根県希少野生動植物の保護に関する条例」で指定している希少野生動植物について、生息・生育環境の保全対策や地元住民等関係者と連携した保護対策を実施する。

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	調査研究した種の総数	目標値	5.0	5.0	5.0	5.0	種
	式・定義	調査研究した種の総数	取組目標値					
			実績値	5.0				
			達成率	—	—	—	—	%
2	指標名		目標値					
	式・定義		取組目標値					
			実績値					
			達成率	—	—	—	—	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	2,527	2,115
うち一般財源 (千円)	2,527	2,115

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基じた現状）

- 5種類の指定希少野生動植物を対象に希少野生動植物保護巡視員・団体（知事認定：8個人、11団体）が巡視活動を実施した。巡視報告件数は42件で前年度と比べて13件減少した。
- 保護管理計画に基づき保護団体及び関係機関等と共同で保護活動、モニタリング調査等を実施した。
- 河川調査等を実施しニホンウナギ、アユカケの情報を収集した。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 希少野生動植物保護巡視員・団体による巡視活動により保全・保護が図られている。
- ミナミアカヒレタビラについては、H26年度に保護団体、研究機関、行政で設置した保護対策協議会で検討した生息域内・外保存を実施し絶滅リスクの回避を図った。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

### ①困っている「状況」

県において全ての希少野生動植物の調査研究をすることは困難

### ②困っている状況が発生している「原因」

希少野生動植物の調査研究情報は、県、教育・研究機関（大学、三瓶自然館、宍道湖自然館、ホシザキ野生生物研究所等）、民間研究者、NPO等の様々な主体に蓄積

### ③原因を解消するための「課題」

教育・研究機関（大学、三瓶自然館、宍道湖自然館、ホシザキ野生生物研究所等）、民間研究者、NPO等との調査研究情報の共有が必要

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 県において全ての希少野生動植物の調査研究をすることは困難なことから、教育・研究機関（大学、三瓶自然館、宍道湖自然館、ホシザキ野生生物研究所等）、民間研究者、NPO等と日常的に情報交換できるよう緊密な連携を図り、調査研究成果や知見を共有し蓄積していく。
- 保護管理計画に基づき保護団体及び関係機関等と共同で保護活動、モニタリング調査等を継続して実施する。
- ミナミアカヒレタビラについては「大原川ミナミアカヒレタビラ保護対策協議会」で保護対策等を協議・検討していく。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。  
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

## 9. 追加評価（任意記載）